

谷川岳一の倉沢中央稜

記録 河本嘉照



期 間：平成 30年 7月 20日（金）夜～7月22日（日）
種 別：横須賀山岳会山行
山 域：一ノ倉（中央稜）、幽ノ沢
参 加 者：CL 金井良一、記録 河本嘉照
コースタイム：
初日 18:00 横須賀 0:30 ロープウェイ駐車場 1:30 一ノ倉出合
2日目 4:30 起床 5:40 一ノ倉出合 7:00 テールリッジ 7:50 中央稜 10:25
4ピッチ目 12:30 下降開始 13:10 テールリッジ 17:15 一ノ倉出合
3日目 5:40 一ノ倉出合 6:00 幽ノ沢出合 6:40 事故現場 8:00 幽ノ沢出合
8:20 一ノ倉出合

初日、横須賀から藤沢、圏央道、関越と車を走らせ駐車場に0:30に到着。圏央道が意外と渋滞しており到着が予想より遅れた。ロープウェイ駐車場から暗闇を徒歩で進む。1:30 一ノ倉出合に到着。ビールで乾杯し明日の検討を誓い仮眠を取る。

2日目、5:40の出発となったが、入渓口に行く手を阻む様にスノーブリッジができていた。かなり状態が悪く今にも崩れそうであったが他に道がなく、やむなくそこを潜ることにしたが、今考えればそこが一番の核心部であったと思われる。帰りには思ったとおり一部崩壊しており、確率としてはかなり低いかも知れないが、通過している最中でなくて本当に良かった。

沢沿いを進むと第二の関門、雪渓が現れた。この雪渓の状態も悪く一部クラックが入っており、祈りながら慎重に足を進めた事を思い出す。とにかく静かにそして素早く歩くしかなかった。



スノーブリッジ

とにかく私は思うのだが、一ノ倉というところは取り付くまでが非常に悪い。テールリッジにしてもそうだが、クライミングをしているよりもはるかに恐怖心を覚える。ところどころフィックスロープが張られているが、そのロープも状態が悪く、切れている、もしくは切れそうになっているものがほとんどである。まあ、こんなものに頼るなら、一ノ倉を登る資格がないという事なのだろうか。



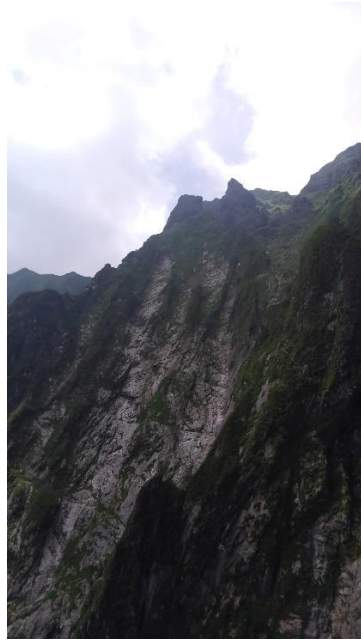
フィックスザイルの補修をする金井代表

7:50 中央稜につき、ここからつるべで登攀開始。ホールドスタンス共にしっかりしており特に特筆するような箇所もなかった様に思える。ただ4P目の核心部はそれなりにしょっぱかった。最近はこの4P目で登攀終了とするのが一般的だということで我々もそれに従うことにした。

12:30 から下降を開始したわけだが、やはり登りの数倍の緊張を強いられる。特にテールリッジから雪渓までの間が本当に悪い。慎重に慎重を重ね、幕場に着いたのが17:15であった。



中央稜



第三スラブ

2日目は江川会員と合流し、幽ノ沢V字右をやる予定であったが、車のトラブルで来られなくなり、この日の登攀を中止し、柴崎会員の事故現場までとした。

横須賀山岳会会員にとって幽ノ沢V字右は特別な場所である。次回計画する時は、登攀のできる会員全員で臨みたいところである。



亡き柴崎会員に語りかける金井代表



ケルンを積んだ